

安全衛生上の注意事項（水系）

1. 取扱い上の注意

- 取扱いはできるだけ皮膚に触れないように、必要に応じて保護手袋、マスク、保護メガネ等を着用して下さい。
- 取扱い後は、手洗い、うがいを十分に行ってください。
- 塗装、乾燥等を行う作業場所では、換気装置を設け、作業中および作業後も十分換気を行ってください。
- 本来の用途以外に使用しないで下さい。

2. 緊急時及び応急処置

- 目に入った場合は直ちに大量の清水で洗い流し、速やかに医師の診断を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合は石鹼を使い洗い流して下さい。必要があれば医師の診断を受けて下さい。
- 誤って飲み込んだ場合は大量の清水を飲み、吐き出した後速やかに医師の診断を受けて下さい。
- ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合はしばらく安静にするか、医師の診断を受けて下さい。

3. 貯蔵上の注意

- 気温が0℃～40℃で直射日光の当たらない屋内に保管して下さい。
- 中身が漏出した場合は乾燥した砂等を散布した後回収するか、ウエス等で拭き取ってください。
- 子供の手の届かないところに保管して下さい。

4. 廃棄上の注意

- 使用済みの容器および未使用の廃塗材等を廃棄する場合は産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
 - 本材料を廃棄する場合は地面や排水溝等に流さないで下さい。
- ※詳細な内容が必要な場合は製品安全データシート(MSDS)をご参照下さい。

安全衛生上の注意事項（溶剤系）

1. 取扱い上の注意

- 保護手袋/保護眼鏡/顔面保護具を着用して下さい。
- 取扱う前にすべての安全注意を読んでからご使用下さい。
- 屋外または換気の良い場所でのみご使用下さい。
- 着火源から遠ざけて下さい。一禁煙。
- 容器を密閉して下さい。
- 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用下さい。
- 静電気対策を講じて下さい。
- 粉じん/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入してはならない。

2. 緊急時及び応急処置

- 気分が悪い時、皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断/手当を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合:多量の水と石鹼で洗ってください。
皮膚(または毛)にかかった場合:直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ捨て流水/シャワーで洗ってください。
吸入した場合:被災者を新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させて下さい。
- 水はリスクを増大させます。火災に際しては指定された消化剤を使用して下さい。

3. 貯蔵上の注意

- 気温が0℃～40℃で直射日光の当たらない屋内に施設して保管下さい。(低温に保つ)
- 換気の良いところで保管下さい。容器は密閉して下さい。
- 中身が露出した場合は乾燥した砂等を散布した後回収するか、ウエス等で拭き取ってください。

4. 廃棄上の注意

- 適切な処置を講じたとき以外は、環境への放出を避けて下さい。
内容物・容器を廃棄する場合は、地方・国の規則に従って廃棄して下さい。
- ※詳細な内容が必要な場合は製品安全データシート(MSDS)をご参照下さい。

アドグリーンコート性能・試験内容

■性能表

試験項目	試験結果	備考
容器の中での状態	異常を認めない(かき混ぜたとき堅い塊がなく、一様になる。)	-
塗装作業性	支障を認めない	-
初期付着力	異常を認めない(クロスカット法)	JIS K 5600-5-6
耐水性	異常を認めない(23℃×7日間)	JIS K 5600-6-2
寒熱サイクル	異常を認めない(50℃×3h/-20℃×3h/20℃×8h×10サイクル)	JIS K 5600-7-4
促進耐候性	異常を認めない(キセノンランプ法)	JIS K 5600-7-7

■アドグリーンコート®EX性状

試験項目	試験結果
外 観	粘滑液体
主成分	アクリルシリコン樹脂
粘度 (mpa・s30℃)	2,000～7,000mpa・s/23℃
不揮発分	EX 621±5 (EXα 48±5)
比 重	EX 1.4±0.1 (EXα 1.1±0.1)
PH	8～9
消防法の分類	非危険物

太陽光高反射・遮熱塗料
Adgreencoat® EX
アドグリーンコートEX

取扱い説明書

標準施工仕様

■製品案内:上塗材

製品名	荷 姿	標準塗布量(kg/m ² /回)	塗 回 数	塗布面積(1工程あたり)	内 容
Adgreencoat® EX Adgreencoat® EXα	14kg/缶	EX=0.2kg/m ² EXα=0.15kg/m ²	2	EX=70m ² /缶 EXα=93m ² /缶	水 系 アクリルシリコン樹脂

■製品案内:下地材

製品名	荷 姿	標準塗布量(kg/m ² /回)	塗 回 数	塗布面積(1工程あたり)	内 容
アドパーミエイト (非金属用)	14kg/缶	0.1～0.17kg/m ²	1	82～140m ² /缶	水 系 ナノ・カチオン系高浸透形 エポキシ変性エマルジョン
アドウォール (非金属用・壁用)	16kg/缶	0.1～0.12kg/m ²	1	133～160m ² /缶	水 系 特殊ウレタン変性 アクリルエマルジョン
アドソリッド (石綿スレート専用)	18kg/缶	0.1～0.17kg/m ²	1	105～180m ² /缶	水 系 水系無機シーラー
アドマイルドコート (金属用)	16kg/缶	0.12～0.16kg/m ²	1～2	100～133m ² /缶	溶 剤 弱溶剤エポキシ樹脂
アドプラコート (金属用・塩害対策)	15kg/缶	0.12～0.16kg/m ²	1～2	93～125m ² /缶	溶 剤 無希釈1液エポキシ樹脂
アドアスファルトシーラー (防水層専用)	16kg/缶	0.1～0.2kg/m ²	1	80～160m ² /缶	溶 剤 溶剤系湿気硬化型 ウレタンプライマー

施工上の注意事項

〈主材/アドグリーンコート®EX〉

- 主材は重量の重い特殊原料を配合しているため、必ず使用直前(各工程)に3分以上攪拌機(低速回転)で攪拌して下さい。
攪拌が十分でない場合、塗料の効果が低下する可能性があります。
- 下地調整の工程は塗装工事における責任範囲には含まれません。
- 気温5℃以下、湿度85%以上の場合は施工を避けて下さい。
- 降雨、積雪、強風の場合は施工を避けて下さい。
- 施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水の影響で色むら、泡等が発生する場合があります。
- 高湿、夜露、朝霧、結露、スコール等の懸念がある場合は、日の高いうちに作業を終え、日没までに十分な乾燥をして下さい。
乾燥が十分でない場合、垂れ、ムラ、剥離等を引き起こす原因となりますので注意して施工して下さい。
- 常に結露が発生する地域及び時期での施工は避けて下さい。
- 主材を一度に厚塗りすると、塗膜の割れが発生する場合がありますので施工仕様書をご覧の上、規定膜厚で施工下さい。
- 一度凍結すると使えなくなります。冬季の管理・輸送にはご注意ください。
- 材料は0℃～40℃の直射日光の当たらない屋内に保管下さい。
(施工時には材料の保管所を確保下さい。万一確保できない場合はシート等を被せ保管条件を厳守下さい。)

※上記内容に加え、溶剤系(下地材)の施工上の追加注意事項は以下の通りです。

- 厚塗りし過ぎたり、上塗りまでのインターバルをあげ過ぎると付着性不良となることがあります。
- 屋外または換気の良い場所でのみ使用して下さい。
- 容器は密閉し保存して下さい。

施工の区切り

面積が広大な施工

- 躯体目地または見切りのよい部分を利用し、その部分に沿ってテープ養生し、1スパン毎に仕上げて下さい。
- 隣接する仕上がり面に施工しないように、逆養生またはあて板養生を行ってください。
- 大面積の場合は、設計段階で十分ご確認の上施工して下さい。

 **NCK** 日本中央研究所株式会社

〒135-0064 東京都港区青海2丁目7番4号
TEL.03-3599-0441 URL http://www.nck-inc.com

設計上の注意事項

①改修下地

- 脆弱な塗膜の表面および浮き、膨れ、はがれ等をディスクサンダー、ワイヤーホイール等の動力工具およびスクレパー、ワイヤーブラシ等の手動工具を併用して、さび、油分、付着物を除去して下さい。
- 下地のひび割れ部等は、シーリング及び下地調整材で補修を行って下さい。
- 粉化物、付着物等は、高圧洗浄機を使用し除去・清掃を行い、その後、下地を十分に乾燥させて下さい。
- 下地処理は旧塗膜・下地の調査を行い、劣化状況(劣化レベル)^(注1)に基づいた適切な処理をして下さい。

下地調整		旧塗膜	合成樹脂 エマルジョン	アクリル 樹脂	ウレタン 樹脂	塩化ビニル 樹脂	リシン	弾性 リシン	アスファルト ウレタン防水 塩ビシート防水	吹付 タイル	単層弾性	スタッコ	合成樹脂 混合ペイント	塩ビ・アクリル 樹脂エナメル	塩化ゴム 樹脂	アクリル アルキド樹脂	石綿 スレート			
																			劣化度-1	劣化度-2
下地処理	劣化度-1	高圧水洗(アクリルスタッコ等で必要であれば凸部サンダー)																	備 考	
	劣化度-2	[必要な時はケレン後]+高圧水洗+補修(アクリルスタッコ等で必要であれば凸部サンダー)																		
	劣化度-3	[状況に応じて全面剥離処理もしくは部分ケレン後]+高圧水洗+補修																		
下地調整	下地調整材	アドパーミエイト水系シーラー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		アドウォール水系シーラー	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		アドブラコート 中強溶剤系プライマー	○	○	○	○	△	△	△	△	○	△	○	△	○	○	○	○	○	(注2)
		アドマイルドコート 弱溶剤系プライマー	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(注2)
		アドアスファルト シーラー(溶剤)	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(注3)
		アドソリッド 水系シーラー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	(注4)

	改修下地	一般名と処置	シーラーの 吸い込み やすさ	下地調整材						備 考
				アド パーミエイト	アドウォール	アドブラコート	アド マイルドコート	アドアスファルト シーラー(注3)	アドソリッド	
非 金 属 系	ケイ酸カルシウム板	ケイカル板、天井ボード	大	○	○	-	-	○	-	密度0.8以上(注5)
	プレキャストコンクリート部材	PC板	小	○	○	-	-	○	○	-
	コンクリートブロック		小	◎	○	-	-	○	○	-
	ALCパネル		大	◎	○	-	-	○	○	-
	石膏ボード	天井ボード	大	◎	○	-	-	○	-	-
	打ち放しコンクリート	RC、SRC	中	◎	○	-	-	○	○	-
	セメントモルタル	RC、SRC	中	◎	○	-	-	○	○	-
	スレート	フレキシブル板	中	◎	○	-	-	○	○	-
	石綿スレート	アスベスト入り板	中	△	△	-	-	-	◎	(注6)
	窯業系サイディングボード	カラーベスト、コロニアル	小	○	○	-	-	-	-	-
防 水	アスファルト防水		小	△	△	△	△	◎	-	(注7)
	塩ビシート防水		小	△	-	△	△	◎	-	(注7)
	ウレタン防水		小	△	-	△	△	◎	-	(注7)
金 属 系	鉄骨	2種~3種ケレン	-	-	-	○	◎	-	-	-
	鋼板	2種~3種ケレン	-	-	-	○	◎	-	-	-
	トタン	2種~3種ケレン	-	-	-	○	◎	-	-	-
	電気亜鉛メッキ鋼板	2種ケレン	-	-	-	○	◎	-	-	-
	ステンレス鋼板	2種ケレン	-	-	-	○	◎	-	-	-
	アルミニウム板	2種ケレン	-	-	-	○	◎	-	-	-
調 合(重量比)				100(無希釈)						-
標準塗布量(kg/m ² /回)				0.10~0.17	0.10~0.12	0.12~0.16	0.12~0.16	0.1~0.2	0.10~0.17	(注8)
標準膜厚(μm/回)				-	-	32~45μm	-	-	-	-
塗 布 回 数				1	1	1~2	1~2	1	1	-
塗 装 間 隔 時 間(23℃)				3時間以上	3時間以上	3時間以上	3時間以上	1時間以上	2時間以上	-
塗 装 方 法				ハケ・ローラー・エアレス						-

- ※ 上記表中・・・◎は適合、-は不適、△は基本的に不適 ※改修下地(非金属系、防水、金属系)の下地処理は状況に応じてケレン後高圧水洗し補修して下さい。
- (注1)劣化レベル[「下地処理の程度」参照]
- 劣化度-1:劣化はあまり進行しておらず、塗膜がまだ丈夫であり、美観のみが指摘または要求される時期。(仕上層表面の劣化)
 - 劣化度-2:劣化がかなり進行し美観的に劣る時期、また建物を保護する上で、機能性からできるだけ早く改修の方がよい時期。
 - 劣化度-3:著しく劣化が進行しており、そのままでは下地へも劣化が及ぶ状態で、直ちに改修の方がよい時期。(下地を含む劣化現象)
- (注2)塗布量が少ない場合、防錆性および付着性が低下しますので、必ず標準塗布量を塗布してください。
特に錆の著しい部分は金属素地が露出するまでケレンして下さい。エッジ部、凹凸部(40μm以上)等は増し塗りして下さい。
- (注3)アドアスファルトシーラーは「溶剤系ウレタンシーラー」
(注4)アドソリッドはケイ酸マグネシウム系「水系無機シーラー」
(注5)乾式耐火被膜板などは塗装できません。
(注6)石綿スレート塗装にアドソリッドを使用する場合は、アスベスト飛散防止のために高圧洗浄を行わないで下さい。尚、塗装時の法令に則り防護服、防塵マスクを着用下さい。
(注7)各防水材は2種から3種ケレンとし出来るだけ旧塗膜を除去して下さい。
(注8)必ず標準塗布量を塗装して下さい。
- ◆フッ素樹脂塗膜、シリコン樹脂塗膜の場合は施工できません。
 - ◆どぶ漬け溶解亜鉛メッキ鋼材、塩化ビニル被膜鋼板は施工できません。
 - ◆上記仕様は一般的な目安ですので、十分ご確認の上施工を行って下さい。
 - ◆改修工事の詳細については、国土交通省改修工事ガイドブックをご覧ください。

■下地処理の程度

程度	旧塗膜劣化状況	下地調整		関連規格	
		使用工具	下地処理後の状態	SSPC規格	スエーデン規格
1種ケレン	特に腐食が著しい状態	サンドブラスト	旧塗膜および錆を完全に除去し、金属下地は金属面を露出する。	SSPC-SP5 SSPC-SP10	SIS Sa3 SIS Sa2
2種ケレン	塗膜が劣化し、腐食が甚だしい状態	ディスクサンダー等動力工具 およびワイヤーブラシの併用	旧塗膜および錆を完全に除去し、金属下地は金属面を露出し、 活膜が存在する場合は残す。	SSPC-SP3	SIS St3
3種ケレン	塗膜の殆どが活膜で、部分的に 発錆が認められる状態	ディスクサンダー等動力工具 およびワイヤーブラシの併用	劣化塗膜および発錆部を完全に除去し、 金属下地は金属面を露出する。	SSPC-SP2	SIS St2
4種ケレン	活膜で、変色、チョーキング、 付着物等が多い状態	ワイヤーブラシ、スクレパー、 サンドペーパー等手工具	粉化物および汚れを除去し、清浄にする。	-	-

②その他

- 下地処理の洗浄等に使用される酸性の洗浄液は、その溶解作用により塗膜が変色する場合がありますので、十分注意して洗浄を行って下さい。
- 下地の強アルカリ性が予測される場合は、エフロレッセンスが発生し仕上塗材に影響を及ぼす場合がありますので、溶剤系プライマーをご使用下さい。
- 下地調整の方法により、実際の色と色見本とは多少異なる場合がありますので、十分ご確認の上施工を行って下さい。
- 新規下地の場合はご相談下さい。

施工仕様

■仕上材施工仕様

【注意事項】主材は重量の重い特殊原料を配合しているため、必ず使用前(各工程)に攪拌機で3分以上低速で攪拌して下さい。攪拌が十分でない場合、効果が低下する可能性があります。塗装間隔は目安であり、完全乾燥時間ではありません。

工 程		製 品 名	標準塗布量(kg/m ² /回)	塗回数	塗装間隔時間(23℃)	希釈剤	希釈率	塗装方法	
1	下地調整	下地処理	下地の種類によって適切な処理をします。(「設計上の注意事項」参照)						
	下地調整材塗り(下塗り)	下地の種類によって適切な下地剤を各下地剤の施工使用に添って塗装してください。							
2	主材塗り	(上塗り①)	Adgreencoat® EX	0.2	1	3時間以上	無希釈	-	ハケ・ローラー・エアレス
3	主材塗り	(上塗り②)*	Adgreencoat® EX	0.2	1	3時間以上	無希釈	-	ハケ・ローラー・エアレス

【型番・EX-020α・EX-021α・EX-022α・EX-312αを塗装の場合】

2	主材塗り	(上塗り①)	Adgreencoat® EXα	0.15	1	3時間以上	無希釈	-	ハケ・ローラー・エアレス
3	主材塗り	(上塗り②)*	Adgreencoat® EXα	0.15	1	3時間以上	無希釈	-	ハケ・ローラー・エアレス

*上塗りの最終養生は24時間以上

■非金属系下地施工仕様

工 程		製 品 名	標準塗布量(kg/m ² /回)	塗回数	塗装間隔時間(23℃)	希釈剤	希釈率	塗装方法
1	下地調整	下地処理	下地の種類によって適切な処理をします。(「設計上の注意事項」参照)					
	下地調整材塗り(下塗り)	アドパーミエイトまたはアドウォール	0.1~0.17	1	3時間以上	無希釈	-	ハケ・ローラー・エアレス

■金属系下地施工仕様

工 程		製 品 名	標準塗布量(kg/m ² /回)	塗回数	塗装間隔時間(23℃)	希釈剤	希釈率	塗装方法
1	下地調整	下地処理	下地の種類によって適切な処理をします。(「設計上の注意事項」参照)					
	下地調整材塗り(下塗り)	アドブラコート ^(注1) またはアドマイルドコート	0.12~0.16	1~2	^(注2) 3時間以上(16時間以上)	無希釈	-	ハケ・ローラー・エアレス

(注1)塩害環境の場合は、アドブラコートを塗布して下地調整を行って下さい。(注2)素地が鉄鋼面・ステンレス面の場合は3時間以上、トタン・カラートタン・アルミニウム板の場合は16時間以上。

■防水面(アスファルト、塩ビシート、ウレタン等)下地施工仕様

工 程		製 品 名	標準塗布量(kg/m ² /回)	塗回数	塗装間隔時間(23℃)	希釈剤	希釈率	塗装方法
1	下地調整	下地処理	下地の種類によって適切な処理をします。(「設計上の注意事項」参照)					
	下地調整材塗り(下塗り)	アドアスファルトシーラー	0.1~0.2	1	1時間以上	無希釈	-	ハケ・ローラー・エアレス

*下塗りの乾燥時間はプライマータックがなくなるのを目安としてください。*シルバー塗膜上へのレベメル施工の場合は、下塗りをシルバー一面を完全にシールするように0.3kg/m²/2回塗りをしてください。

■石綿スレート下地施工仕様

工 程		製 品 名	標準塗布量(kg/m ² /回)	塗回数	塗装間隔時間(23℃)	希釈剤	希釈率	塗装方法
1	下地調整	下地処理	表面に張り付いた有機ゴミ(鳥の糞など)は掃などで除去してください。高圧洗浄機による洗浄はアスベスト飛散の原因となる為、行わないでください。					
	下地調整材塗り(下塗り)	アドソリッド	0.1~0.17	1	2時間以上	無希釈	-	ハケ・ローラー・エアレス